

令和 7 年(2025 年) 9 月 11 日

保護者の皆様

札幌市立もみじ台中学校
校長 木 原 英 俊

「全国学力・学習状況調査結果の概要」のお知らせ

早涼の候、保護者の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に対し御理解と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、今年の 4 月 17 日(木)に「全国学力・学習状況調査」が全国の小学校 6 年生と中学校 3 年生の生徒を対象に実施されました。

今年度は国語、数学、理科の 3 教科についての学力調査と生活習慣や学習状況などに関する調査が行われました。この結果を、本校生徒と全国平均との比較を基に分析し、別紙資料にまとめました。本校では、この結果を今後の指導の在り方や方向性の検討に生かし、今後の指導を改善してまいります。

なお、本校生徒と全国平均との比較においては、下記のような基準で評価し、記述いたしました。今後とも、本校の教育活動への御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

- ・ 全国平均との差が± 3 ポイント以内 → 「全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回る（下回る）」
- ・ 全国平均より + 3.1 ポイント以上高い → 「全国平均に比べ、上回っている」
- ・ 全国平均より - 3.1 ポイント以上低い → 「全国平均に比べ、下回っている」

(担当 細川 電話 897-4584)

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
【領域】 〔知識及び技能〕 「言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国平均に比べ、下回っている。 〔思考力、判断力、表現力等〕 「話すこと・聞くこと」は、全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回る。 「書くこと」は、ほぼ同程度であるが、やや下回る。 「読むこと」は、全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回る。	●文脈に即して正しく漢字を使うこと。 ●事象や行為を表す語彙を理解すること。 ●資料を用いて、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫すること。 ●目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。 ●自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと。 ●表現の効果について、根拠を明確にして考えること。	○授業の中で漢字を復習する時間を設けると共に漢字が定着しているのかを振り返る場面を設定する。 ○文章の読解に必要な語句の意味の確認を継続的に行う。 ○資料の活用目的や活用の仕方を理解できるように話し合い活動を推進する。 ○根拠を支える材料を整理することを意識し、文章表現する活動を充実させる。自分の考えを相手に伝えるために、常に根拠を明確にして書く活動を推進する。 ○作者の意図や表現の効果意識して文章を読解する学習活動を充実させると共に、根拠を常に言語化して表現する活動を継続して行う。

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
【領域】 ◆「数と式」 ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回る。 ◆「図形」 ・全国平均に比べ、下回っている。 ◆「関数」 ・全国平均に比べ、下回っている。 ◆「データの活用」 ・全国平均に比べ、下回っている。	●目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること。 ●証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすこと。 ●事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ること。 ●相対度数などの用語の意味を正しく理解すること。	○説明したい事柄に応じて自ら文字を設定し文字を用いた式に表したり、目的に応じて式を変形させ事柄が成り立つ理由を説明したりする活動の充実。 ○基本的な性質を論理的に確かめたり、証明を読んで新たな性質を見いだしたりする活動の充実。 ○表、グラフ、式を相互に関連付けて考察し表現する活動の充実。 ○新しい概念を習得する際に、正しく表現する活動や関連する既習知識と結びつける活動の充実。

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
【領域】粒子分野 〔思考力、判断力、表現力等〕 「理科の実験ではなぜ水道水ではなく精製水を使うのか」は全国平均に比べ、下回っている。 〔思考力、判断力、表現力等〕 「化学変化をモデルで表す」は、全国平均に比べ、下回っている。 【領域】生命分野 「小腸・肺・根毛」の構造については、全国平均に比べ、下回っている。 【領域】エネルギー分野 「電熱線を利用した電気回路の選択」は、全国平均に比べ上回っている。	●身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうか。 ●化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうか。 ●小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができるかどうか。 ●電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうか。	○実験を行う授業の中で、どのような目的でこの実験器具を使うのかや、実験の課題、誤差や実験結果がうまく出なかった原因などを確認する時間を設けると共に小テストや類似の実験を行う場面などで定着しているのかを振り返る場面を設定する。 ○様々な化学変化に対して、原子モデルや分子モデルを生徒が実際に動かしながら化学変化について考える場面を設定する。 ○共通性や多様性などを見出すために、様々な視点からの意見や結果を比較する話し合い活動を推進する。 ○電流が流れた時に起こる現象を根拠をもって考えると共に、その根拠を支えるために、条件を整理したり、回路における電圧や電流を正しく計算したりする活動を継続して行う。

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果

生徒質問紙調査結果について

生活習慣に関すること

質 問 項 目	もみじ台中	北海道	全国
①朝食を毎日食べている	81.5	75.8	78.7
②毎日、同じくらいの時刻に寝ている	33.3	32.9	34.0
③毎日、同じくらいの時刻に起きている	55.6	55.2	54.7

「している」と答えた割合（％）

【全体的な傾向や今後の改善の方向】

②の項目に関して、前年度より7ポイント向上しています。①の項目は北海道や全国平均を上回り、よりよい習慣を心掛けながら生活していることが本調査から窺えます。

自己肯定感や自己有用感、将来に関すること

質 問 項 目	もみじ台中	北海道	全国
①自分には、よいところがあると思いますか	86.4	85.6	86.2
②将来の夢や目標を持っていますか	72.8	66.4	67.5
③人の役に立つ人間になりたいと思いますか	98.8	96.4	96.6

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた割合（％）

【全体的な傾向や今後の改善の方向】

全ての項目において北海道や全国を上まわる結果となりました。また、全ての項目で昨年度よりもポイントが向上しています。道徳授業やキャリア学習等を通して、自身の進路や共助の精神についてよく考えることができていると思います。

学習への取り組みに関すること

質 問 項 目	もみじ台中	北海道	全国
①学校の授業時間以外に、普段2時間以上勉強している	30.9	24.3	30.8
②話し合う活動を通じ、自分の考えを深め、広げている	87.7	85.3	84.7
③学習内容を振り返り、次の学習につなげることができる	83.9	71.3	73.4

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた割合（％）

【全体的な傾向や今後の改善の方向】

全ての項目において北海道や全国平均と同程度や上まわる結果となりました。話し合いによる協働的な学習により、積極的に授業に取り組んでいる様子が窺えます。

③の項目に関しては、北海道・全国平均を10ポイント以上上回る結果となりました。AARサイクルを基にした学習活動が定着しつつあることが本調査でわかりました。

しかし①の項目に関しては、家庭学習時間が1時間未満の生徒が40%いることが本調査でわかりました。家庭における学習習慣の確立についてはまだ課題があると考えます。